

## 臨床研究

### 『局所進行膵癌に対する温熱療法併用集学的治療の安全性、効果の検討』

筑波大学附属病院（消化器外科，消化器内科，放射線腫瘍科）では，標題の臨床研究を実施しております。本研究は過去に局所進行膵癌と診断され，当院で温熱療法併用化学放射線治療を施行された患者様の合併症や予後調査を行い，本治療の安全性，有効性を検討するものです。本研究に関する問い合わせ，または研究への参加を希望しない場合は，担当者までご連絡をお願いいたします。

本研究の概要は以下のとおりです。

#### ① 研究対象

2006年1月1日から2016年7月31日までに当院で膵癌治療を受けた患者様で，局所進行膵癌の診断で，化学療法，化学放射線治療，温熱療法併用化学療法（化学放射線治療）を施行された患者様が対象です。手術施行の有無は問いません。

#### ② 研究の意義・目的・方法

膵癌は日本人のがんによる死亡の第4位を占め，治療が最も難しい難治性がんの代表格と言えます。膵癌の治療は「手術」が現時点で最も有効であり，早期に発見して手術を行うことが唯一根治を望める治療とされています。しかし，診断された時に「手術」を施行できる患者さんは約2割程度に留まり，全体の約半数が診断時にすでに肺や肝臓などの他臓器転移を起しており，根治を目指した手術は不可能な状態です。残りの20～30%の患者さんは膵臓の周囲のみに病気が広がった「局所進行膵癌」となります。この患者さんはこれまで多くの場合「手術」を断念されてきましたが，手術の前に抗がん剤や放射線治療を含めた治療，いわゆる「術前治療」を行うことで手術可能となったり，生存期間が延長したりすると報告されるようになりました。我々はこの「局所進行膵癌」の患者様に術前治療として，従来の抗がん剤，放射線治療に加えて，さらに保険収載されている「温熱療法」を加えることで，抗がん剤や放射線の効果を増強させ，従来では手術困難と判断されてきた患者さんが手術可能となることも経験してきました。このように様々な治療法を組み合わせることを集学的治療といいます。温熱治療は抗がん剤の癌組織への取り組みが上昇したり，熱による直接の抗がん作用もあることが知られています。また副作用も少なく比較的安全に施行可能であり，術前治療として用いられるには有効な方法と考えております。これまでに当院で局所進行膵癌に対して治療を受けた患者様の合併症や，予後を検討することで，本治療法の有効性，安全性を検討することが目的です。

③ 研究機関名・研究者名

筑波大学附属病院 消化器外科

大河内信弘, 小田竜也, 倉田昌直, 橋本真治, 下村 治

筑波大学附属病院 放射線腫瘍科

櫻井英幸, 奥村敏之, 福光延吉

筑波大学附属病院 消化器内科

兵頭一之介, 福田邦明, 森脇俊和, 石毛和紀, 長谷川直之

④ 保有する個人情報に関する利用目的

個人が特定されない形での論文発表, 学会発表を行うことがあります。どの発表形式においても, 個人を特定するような名前, 住所, イニシャル, カルテ番号などの項目は一切使用致しません。

⑤ 保有する個人情報の開示手続

対象となった患者様, あるいはご家族には研究内容についてお答えすることは可能です。また本研究に診療情報の提供を希望されない方につきましても, 対応いたしますので, 問い合わせ先にご連絡下さい。

⑥ 保有する個人情報の問い合わせ・苦情等の連絡先

筑波大学附属病院消化器外科 (対応時間: 平日 9:00~17:00)

〒305-8576 茨城県つくば市天久保 2-1-1

研究担当者: 消化器外科 小田 竜也

研究責任者: 放射線腫瘍科 櫻井 英幸

連絡先 電話: 029-853-3221 FAX: 029-853-3222